

平成 29 年霞ヶ浦学講座第 2 講「世界の湖沼と霞ヶ浦」結果報告

平成 29 年 5 月 21 日（日）13:30－15:30

場所：霞ヶ浦環境科学センター多目的ホール

講師：沼澤篤（霞ヶ浦環境科学センター嘱託），受講者：51 名

要旨：第 17 回世界湖沼会議（会期：平成 30 年 10 月 15 日～19 日）では、世界の湖沼の環境保全活動や調査研究をしている方々が参加し、話題提供します。それを迎える私たちが世界の湖沼の現状について少しでも事前に学んでおけば、交流が深まるとともに、霞ヶ浦の環境改善の参考にすることができます。

地球上の湖沼環境は自然のまま残っているところは少なく、多くは人間社会の影響を受けて富栄養化、化学物質汚染、水位変動、土砂流入、酸性化、外来種、生態系の単純化などの問題を抱えています。欧米の先進国では、英国湖水地方やアルプス山麓のように大切にされてきた湖沼がある一方、北米の五大湖のように化学物質汚染や富栄養化対策で経験や知見を蓄積してきた湖沼もあります。ロシアのバイカル湖は世界一の透明度を保っていますが、固有種の減少、工場排水汚染、地球温暖化の影響が問題視されています。

中央アジアのアラル海では流入河川から過度に農業用水を取水した結果、水位低下が顕著で、湖面積が数分の一に縮小してしまいました。アフリカの湖沼は古代湖が多く、固有種が生息し、独特の生態系が成立していましたが、汚染や外来種に悩まされています。

中国の太湖、滇池のように、アジアの湖沼では流域人口が多く、農業はじめ産業が発展した結果、富栄養化、土砂流入、白濁、水位変動、過剰養殖などの問題が生じているところが多くなっています。トンレサップ湖（カンボジア）、インレー湖（ミャンマー）のように、水上生活者が伝統的な生活文化を維持しつつ、水質悪化が課題になっています。

チリカ湖（インド）、ラグナ湖（フィリピン）、ソククラ湖（タイ）などの海跡湖（汽水湖）は、堆砂、土砂流入、水位変動、海水浸入の減少、水質悪化、生態系の変化などの難しい課題が生じて、行政府と住民は対策に追われています。

こうした自然湖沼だけでなく、人造湖、ダム湖も多くの課題を抱えています。アマゾン川上流のダム湖、中国・長江の三峡ダム湖、エジプト・ナイル川のナセル湖、中国・雲南省のメコン川上流のダム湖などは富栄養化など水質悪化だけでなく、水没地域の住民の強制移住、魚類移動の分断、水資源をめぐる下流との紛争などの難しい問題が生じているところが少なくありません。

地球上の湖沼の良質な淡水は、生活用水、産業用水としてのみならず、周辺湿地を含めて水界生態系を構成し、生物多様性や貴重な遺伝子資源の宝庫としても重要視されるようになりました。また湖沼は気候緩和作用を有し、人々の心を癒す美しい景観、親水空間、次世代の環境学習の場としても大きな恩恵をもたらしています。

世界湖沼会議を再び迎えるにあたり、私たち茨城県民は、郷土の宝である霞ヶ浦についてよく知るとともに、世界の湖沼の現状について、謙虚に客観的に理解を深める好機と捉え、視野を広げていきたいものです。